

水門川（大垣市）環境整備計画



(1) 水門川周辺の概要

水門川の流れる大垣市は、岐阜県西南部に位置し、古くから城下町として栄えてきたところである。周辺には揖斐・長良・木曾の三大河川があり、大垣市を含めて一帯は「輪中」を形成し、度重なる水（洪水）との戦いを繰り返してきた。

(2) 関連計画と水門川との位置付け

水門川周辺一帯は、昔から行政・商業・業務の中心的役割を果たしてきた。すなわち水門川は、古くは大垣城の外堀として、あるいは舟運交通の要として永年機能してきた。現在においては大垣の中心市街地を南北に貫流する主要排水路として機能している。

大垣市は、昭和57年に国土庁より「水緑都市モデル地区」の指定を受け、そのなかで水門川は「都市散策ゾーン」と位置付けられており、水の広場・四季の広場が整備されている。一方、昭和60年5月に建設省の「市街地活性化計画（シェイプアップ計画）」の指定都市となり計画が策定され、中心市街地の個別整備事業を一本の柱にまとめ、水門川を「水と緑の軸」に位置づけ、四季の路・水門川プロムナードが整備されつつある。

(3) 環境整備計画の目的

水門川の環境整備計画の目的は、水門川の河道幅員等に検討を加えたうえで、中心市街地を流れる水門川一帯を治水・利水さらには親水機能を有する「水都大

垣の中心」イメージにふさわしい水と緑の空間の創造を図るものである。

(4) 計画の概要

(ア) 水門川一帯の環境整備を進めるなかで、周辺その他施設（歴史文化・公園緑地・公共施設等）との密接なネットワークを創るとともに、その回遊化を図っている。

(イ) 水門川に設置される核空間（水の広場・四季の広場）を有機的に繋ぐとともに、繁ぎの部分にも快適性の確保を図る。そのために、隣接する分園や社寺、公共施設等の外部空間と水門川を一体的に取り組んでいる。また、歴史文化が感じられる親水空間の創出を図る。

(ウ) 水門川の約2km区間を7ブロックに分け周辺の環境に調和した景観並びに修景整備を図っている。（全体の統一と個々のアイデンティティーの創出）

(エ) 川面が見やすく親水性の高い河川断面の形態を考慮している。

(オ) 四季の路のテーマを活かすために、水門沿いの緑化植樹の配置と構成を考慮する一方、沿道緑化や宅地内緑化を推進する。

(カ) 水都大垣にふさわしい水を象徴化する手だてとして、可能なかぎり公共公益施設については、「水に浮かぶ」イメージを有するような修景整備を図る。

（岐阜県 河川課）

